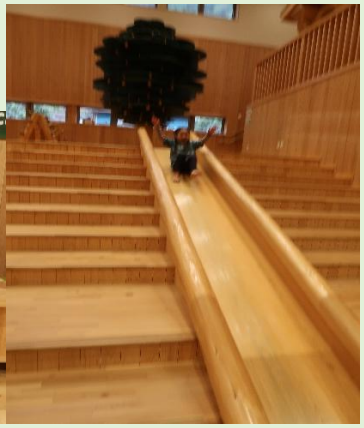
令和７年度　とうきょうと　すくわくプログラム活動報告

身近な「木」を知る。「木」に触れて遊ぶ

毎日子ども達が遊ぶ園庭には様々な樹木があり、子ども達は四季を通して虫探しや鳥のさえずりを聞いて生活しています。「こぶし保育園には何の木があるかな」その問いかけに「名前を知らない木もあるね」子ども達は図鑑で木の種類を調べる中で「コブシの木は８メートルになるんだって！」「イチョウっておすとめすがあるんだよ」等、様々な発見がありました。「コブシ」「ケヤキ」「ヤマザクラ」「ムク」「フジ」「イチョウ」「前はクワもあったよね」「木の幹に白い模様があるのはなぜ？」「ギンナンができるのとできないのがあるのはなぜ？」そんな疑問が出てくると、園庭の木だけでなく、散歩先の木々にも興味が広がっていきました。木の切り株の年輪を数えると樹齢がわかることも知り、みんなで数えてみました。保育園の中で「木で作られたものを探してみると、いつも使っている「机」や「椅子」「鉛筆」「ピアノ」などがあり、子ども達は「これも木じゃない？」と見つけるたびにクラスに貼ってある紙に記入していき、自分達が生活する環境にはたくさんの「木で作られたもの」があることを知りました。子ども達にとても身近な折り紙や画用紙などの「紙」も木から作られているとわかるとびっくりしていました。

10 月に５歳児が園外保育に出かけました。自然にあふれた「桧原森のおもちゃ美術館」では木のすべり台や遊具、木の玩具に触れて遊ぶ中で体いっぱいに木の感触や温もりを味わい、みんなで楽しんできました。



木を使って作ってみたい！

「木で何かを作ってみたい」子ども達の気持ちが膨らみ、５歳児を中心にして 11 月、園庭のベンチの制作に取りかかることになりました。ヤスリをかける作業は３，４歳児にも手伝ってもらいました。ベンチの色を決め、ブルーとグリーンのペンキで子ども達が刷毛を使って色付けをしました。大人と一緒にドライバーを使って釘を打つ体験もし、いくつかの工程を経て、ついにベンチが完成しました。ずっと様子を見守ってきた小さい子ども達も呼んで、みんなで座ってみるととてもいい感じ！自分達が手掛けてきたベンチの完成は子ども達にとって大きな喜びになりました。そして「もっと作りたいね！」子ども達の思いはどんどん広がっていきました。

大きなすべり台ができた！

「小さい子ども達も楽しく遊べるものを作りたい」そんな思いから大工さんと一緒に木製のすべり台を作ることになりました。２月には大工さんから大工道具やおがくずを見せてもらう機会を作りました。２歳児が実際に「おがくず」に触れてみると「いいにおい」「すっぱいにおいがする」との声。大工道具を見せてもらうと「かっこいい」と興味津々でのぞき込む姿がありました。そして少しずつ組み上がっていくすべり台を見上げ「おおきいね！」と期待が高まります。ペンキは５歳児が担当、ベンチと同じグリーンの色を塗りました。すべり台の完成は子ども達みんなでお祝いしました。作ってくれた大工さんに感謝を伝え、さっそく遊んでみることに！園庭の樹々の中にある木製すべり台は子ども達の大切な遊び場になりました。

木のおもちゃで遊ぶ

園内にも木のおもちゃは沢山あります。子ども達は毎日、様々な木のおもちゃで遊んでいます。温かみがあり、感触のよい木のおもちゃは小さな子どもたちにとってもお気に入りです。

振り返りから

木に囲まれた園庭は、四季を通して季節感を感じることができます。室内にも目を向けると、生活の様々なところで「木」は使われています。そんな身近な「木」をテーマに子ども達と木を知り、木に触れ、木を使い、木で遊ぶことで、子ども達の興味関心はさらに広がっていきました。日々の保育の中で身近な「木」を感じながら、子ども達みんなで日々の生活を豊かに楽しんでいきたいと思っています。